

連続性を意識した幼小中の接続へ

～幼稚園教育の視点から～

幼稚園教育で生まれたことが、次のステージ(小学校)にもつながり、さらに積み上げられて、着実に成長する子どもの姿をめざしたいとみんなが願っていると思います。

幼小中接続がさらに効果的に実施されるために、小中学校を意識した幼稚園での取組を紹介します。幼小中接続を踏まえた今後の取組についてそれぞれの小中学校で再検討していただければ幸いです。

幼稚園の取組

接続のポイント

1 幼児の生活や学びの連続性を踏まえた指導計画の改善・充実

- 小学校の行事等への参加や授業参観等、幼小の連携を意図的・計画的に行っている。
- 保護者とコミュニケーションをとり、家庭・幼稚園の生活の関連性・連続性を踏まえた保育を展開している。
- 幼児による話し合い活動を積極的に取り入れた遊びや幼児の主体性を育む環境づくり等、小学校へのつながりを配慮した保育計画を作成している。
- 「気付き」を大切にした遊びを活用し、小学校の生活科を意識した保育をしている。

学びや人格形成は幼児期から始まります！

幼小の育ちと学びをつなぐ「スタートカリキュラム」による効果的な指導が大切です。

2 幼児同士の言葉による思いの伝え合い

- 教師が、人間関係の育ちを意識し、友達との関わりがもてるように支援するだけでなく、幼児自身の表現を促す伝え合いの機会を意図的に作っている。
- 幼児が様々な体験の中で、感動したり、友達と心が通ったりする経験を通して自分の思いを言葉で表現する場や機会の確保に努めている。
- 友達よかったところを言葉を使って紹介するなど、互いを認め合える学級づくりを意図的に行っている。

心ゆさぶる体験が表現力を高めます！

幼少期の様々な体験が豊かな情操を培い、言葉による表現力を高めます。

3 幼児が主体的に体を動かす心地よさを体験できる遊び

- 体を動かす気持ちよさを体験させるために、体を使った遊びができるよう遊具を工夫し、季節に合う遊びができる環境づくりに努めている。
- 様々な工夫を凝らした環境を考え、幼児が協同して遊べる活動を取り入れ、課題である運動量の不足の解消に取り組んでいる。
- 室内でも十分な運動量が見込める活動を積極的に取り入れている。

運動量の十分な確保が、健全な発育につながります！

幼少期の運動が、健康な体をつくります。今、幼少期の運動不足が課題になっています。

4 幼児の発達する姿やよさに目を向けた評価の工夫・活用

- 特別な支援を要する幼児について関係機関との連携を図りながら個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成し、保育する園が増えてきた。
- 具体的な指導事例を基に教師相互の意見交換等を行いながら幼児一人一人のよさや発達を認め、適切な見取りをしている。

一人一人の見取りが教育効果を高めます！

幼稚園の情報を小学校でも共有することが大切です。

幼小中接続を意識した教育活動をさらに生かしていくためには、幼稚園での幼児の実態を知った上で、小中学校での教育活動を進めることが重要になります。生活の連続性や発達、学びの連続性を幼小中それぞれの教師が理解し、指導に生かすことが指導の効果を上げることにつながります。行事や授業を参観する交流はもちろんですが、一番大事なのは、教師間の交流だと考えます。幼小中の先生方が一緒に集まり、子ども一人一人の情報交換を通して、幼小それぞれの指導観や指導法を互いによく理解し、指導の連続性を保つことが大切です。

幼小中それぞれの指導、保育を互いに知ることが大切です！